



Ogata Village GEO GUIDE

大潟村 ジオガイド

ひとが「大地の物語」「大地とひとの物語」「大地のめぐみの物語」と出会う場所

140° E Longitude

40° N Latitude



ジオパークとは？

大地のつくりや生い立ち（ジオ）をもとにして、そこに生活している生物の種類や生態系（エコ）、さらには人々の暮らしや文化（ヒト）などを、学んで楽しめる大地の公園です。

世界と日本のジオパーク

世界ジオパークは世界ジオパークネットワーク（ユネスコの支援により2004年に設立）により認定を受けた世界基準のジオパークです。その地域はヨーロッパや中国を中心に、41カ国147地域が認定されています。日本では日本ジオパーク委員会により44地域が日本ジオパークに認定されており、そのうち9地域が世界ジオパークにも認定されています。（2019年4月現在）

大潟村のジオパークとしての魅力は、

干拓地に誕生した日本で唯一の村の大地から生まれた物語

八郎潟は本土と男鹿島の間の浅い海が砂州によって外海とへだてられてできた湖です。大潟村はこの八郎潟を干拓した大地に生まれました。稲作中心の大規模機械化農業を実践する日本のモデル農村を目指した大潟村には、全国各地から入植者が集まって農業を中心とした生活を営むようになりました。昭和の半ばから国により村の農業と生活の基盤が整えられ、村づくりがすすめられた自治体は日本では大潟村が唯一です。

干拓地内には一面の田んぼ、一直線の道路、防風林など他では見られない風景が広がっています。干拓から半世紀が経ち、人工的につくられた大地には猛禽類のチュウヒなどを頂点とする新たな生態系「湿地性里山」が形成されてきています。

大潟村の風景、モニュメント、施設などから、新たに生まれた生態系、干拓工事の歴史や人工の大地を維持する方策、ひとの暮らしを知ることができます。

男鹿半島・大潟ジオパークの魅力

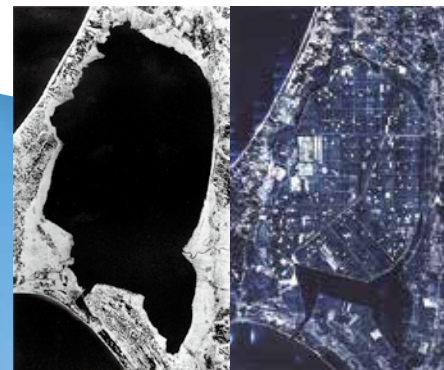
男鹿半島・大潟ジオパークは2011年9月に東北で初めて日本ジオパークに認定されました。男鹿半島・大潟地域は北緯40度線をまたぐ位置にあり、ジオパークとして次の3つの特徴があります。

- 1 日本列島が大地の一部であった時代から現在までの地層がそろっており、7000万年の大地のドラマがよく分かる。
- 2 7000万年の歴史最後の1万年間で形成された大きな湖（八郎潟）を干拓し、新たに生まれた大地で大規模農業を行っている。
- 3 地殻変動による災害を繰り返し受けており、その記憶が多くの慰霊碑や記念碑として地域に残されている。

以上のように、男鹿半島・大潟地域はジオとエコとヒトの深い関わりを実感できる場所です。そこでこのジオパークでは、一ひとが「大地の物語・大地とひとの物語・大地のめぐみの物語」と出会う場所一をテーマとしています。



西黒沢海岸（男鹿市）



干拓前

干拓後



鵜ノ崎海岸（男鹿市）



ジオの見どころ 案内マップ

- ①大潟村干拓博物館 (P6-7)
- ②八郎潟干拓碑 水位標 (P10) 博物館から500m
- ③基幹施設 (P13)
 - 幹線排水路
 - 干拓堤防 (村の周囲)
 - 防潮水門 博物館から12.7km
 - 南部排水機場 博物館から8.5km
 - 農業用水取水口 (19カ所)

- ④大潟富士
八郎潟干拓記念水位塔 (P14) 博物館から8.4km
- ⑤経緯度交会点標示塔 (P14) 博物館から5.1km



経緯度交会点標示塔への標示

- ⑥防災林 (P15)
- ⑦大潟草原野鳥観察舎 (P15)
博物館から2.4km



大潟草原野鳥観察舎への標示



大潟村干拓博物館

八郎潟のおい立ち、大潟村の歴史・農業・環境を学ぶことができます。
常設展示のほか年間を通して様々な企画展示や自然観察会を実施しています。



大潟村干拓博物館では、男鹿半島・八郎潟のおい立ちに関する展示をしています。地面の下に隠れて見ることで見えない大潟村の地層や、採集された貝類化石を間近で観察できます。



大潟村の案内

一週間前までに博物館に申し込みをすると、「大潟村案内ボランティアの会」のメンバーによるガイド案内を利用することができます。博物館内だけでなくジオサイトなどの案内も行っています。



休館日：毎月第2・4火曜日（10月～3月は毎週火曜日）
年末年始（12月31日～1月3日）
入館料：一般・大学生300円（250円）
小中学生・高校生100円（50円）
（ ）は15名以上の団体料金。

〒010-0445
秋田県南秋田郡大潟村字西5-2
TEL:0185-22-4113
FAX:0185-22-4115
URL <http://ac.ogata.or.jp/museum/>

大潟村で採集された貝類化石

大潟村の地下には多くの貝殻が含まれています。貝の種類は地面からの深さ(年代)によって異なっており、時間とともに八郎潟の環境が大きく変わってきたことを物語っています。

各年代の代表的な貝

8000年前 マガキ、ハイガイ

6000年前 アカニシ
オオノガイ
カガミガイ
チリメンユキガイ

4000年前 チヨノハナガイ

2000年前 ヤマトシジミ



マガキ



オオノガイ



アカニシ

◆チリメンユキガイ



チリメンユキガイは主として亜熱帯から熱帯に分布し、現在の日本では瀬戸内海の一部(絶滅した可能性も)と有明海に生息しています。チリメンユキガイが八郎潟に生息していたおよそ6000年前は温暖な気候だったことがわかります。日本海域でチリメンユキガイが発見されているのは、今のところ大潟村だけです。

現在でも、農地など大潟村内の多くの地点で、ヤマトシジミが地面に散乱している様子を見ることができます。これは干拓前の八郎潟が汽水湖であった証拠です。また道路脇などでまれに海の貝が見つかります。海の貝は普通大潟村の地下深くにあるのですが、干拓工事の際、湖底からすくい取った砂を道路予定地に運んで敷いたため、その砂に含まれていたものと思われる。



ヤマトシジミ

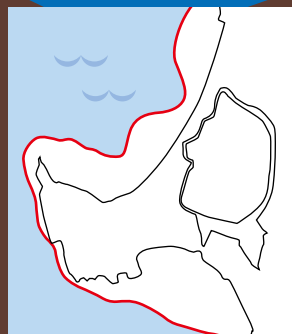


田んぼの様子

強風で倒れた木の根についているヤマトシジミ

八郎潟のおい立ち

八郎潟は、地球全体の気候変動に伴う海面昇降の影響を受けながら約1万年の時間をかけて誕生した汽水湖です。



I. 10,000年前頃

1万年前の平均気温は現在よりも低く、海面も30m程低かったため当時の八郎潟はところどころに沼沢地のある陸地でした。



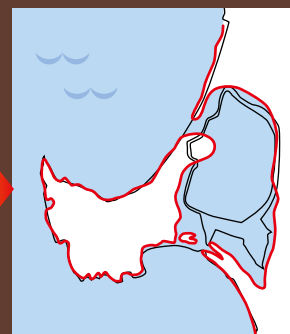
II. 8,000年前頃(マガキ湾期)

現在とはほぼ同じくらいの気候となり海面が上昇し、当時の八郎潟は北側がひらけた奥行き深い内湾となりました。



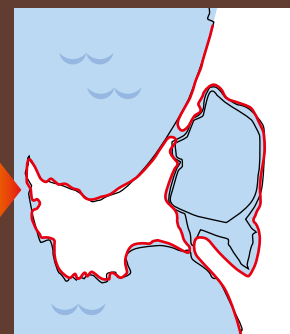
III. 6,000年前頃(ゴイサギガイ湾期)

6000年前は最も温暖な気候となり、海面が現在よりも2~3m上昇したため陸地であった南側も海底になりました。当時の八郎潟は男鹿と本土の間にひろがる浅い内海でした。



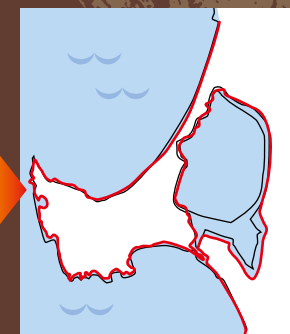
IV. 4,000年前頃(チヨノハナガイ湾期)

4000年前になると海面がやや低下したため、海面が高かったときに北側と南側につくられた砂嘴の一部が海面上に現れました。この砂嘴が日本海と内海の水の出入りを防げるようになりました。



V. 2,000年前頃(シジミガイ湾期の初期)

2000年前になるとさらに砂嘴が発達し、北側と南側にあった外海とつながる水路(潮流口)は狭められ、塩分濃度が下がりました。



VI. 干拓前(シジミガイ湾期)

その後北側の潮流口が砂により封鎖され、日本海とは南側でわずかにつながる八郎潟がほぼ完成しました。

※砂嘴とは、水流で運ばれた砂などでできた細長い高まり。
※表記している年代はおおよそです。



八郎潟の干拓には大きな目的がありました。まずは戦後の食糧不足問題の解決です。干拓によって農地をつくり食糧増産をめざしたのでした。また当時、洪水被害の多かった八郎潟の湖岸地域を守ることも目的でした。八郎潟は水深4～5m程で干拓しやすい条件を持っていたことから干拓工事が計画、実行されました。

八郎潟の干拓と大潟村の略年表

1825	文政8	渡部芹松、八郎潟西岸約400ha開拓。その後八郎潟疎水計画を樹立
1923～1948		八郎潟干拓計画の作成（可知案、金森案、師岡案、狩野案）
1952	昭和27	農林省、八郎潟干拓調査事務所（秋田市）の設置 干拓計画作成に着手
1954	昭和29	オランダからヤンセン教授、フォルカー技師来日、 八郎潟視察
1957	昭和32	農林省「八郎潟干拓事業計画書」完成 八郎潟干拓事業着工 八郎潟干拓事業所設置（後に八郎潟干拓事務所と改称）
1958	昭和33	八郎潟干拓事業起工式の挙行
1959	昭和34	中央干拓地堤防、南部排水機場、防潮水門工事着手
1961	昭和36	防潮水門完成
1963	昭和38	南部排水機場完成 中央干拓地の正面堤防締切完了し、排水の開始
1964	昭和39	新しい村の名称「大潟村」に決定 干陸式挙行 大潟村発足
1965	昭和40	「八郎潟新農村建設事業団」発足
1966	昭和41	中央干拓地の全面干陸
1966～1974		入植者の募集、入植指導訓練後、入植者の入村
1977	昭和52	国営八郎潟干拓事業・八郎潟新農村建設事業完工

国営「八郎潟干拓事業」は、昭和32年に始まりました。工事は順調にすすみ、中央干拓地は昭和41年5月に全面干陸されました。昭和40年からは「八郎潟新農村建設事業」が進められました。昭和42年に入植が開始され、最終的に全国各地から589名が入植しました。

こうして20年に及ぶ歳月と総事業費約852億円の巨額を投じた世紀の大事業は、昭和52年3月に完工し、八郎潟の湖底は17,229ha（内、中央干拓地一大潟村は15,666ha）の新生の大地に生まれ変わりました。

2 ジオの見どころ

八郎潟干拓碑 水位標

昭和38年に堤防と排水機場が完成し排水を開始し、昭和39年、比較的水深が浅い八郎潟の西部を中心に、約5,500haの湖底が姿を現しました。9月には中央干拓地が一般公開され、干陸式が行われました。その開催地に八郎潟干拓碑が建立され、入り口にはかつての八郎潟の水面の高さを示す水位標が設けられました。



水位標



八郎潟干拓碑



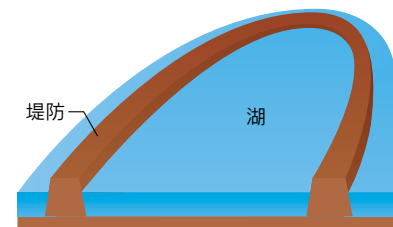
干拓工事は、

- ①堤防の建設
- ②排水路網の整備・排水
- ③防潮水門の建設による八郎潟調整池の淡水化

に大きく分けられます。

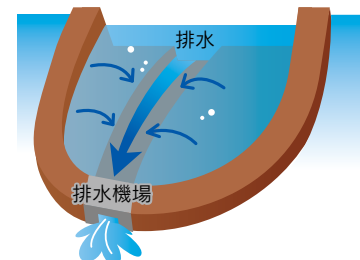
①堤防の建設

湖底から採取した砂を堤防建設地に運んで盛りあげ、アスファルトで舗装し、浸食されないように外側に大きな石を置きました。地盤が軟弱な箇所では表層を掘削して砂に置き換え、その上に堤防を築きました。



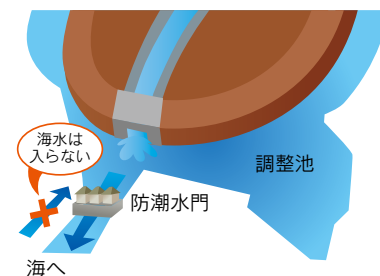
②排水路網の整備・排水

中央干拓地内を貫くように幅の広い幹線排水路を掘削し、支線排水路を幹線排水路につなげることで、堤防内の水をすべて幹線排水路に導き、その末端に設けられた排水機場から排水しました。



③防潮水門の建設による八郎潟調整池の淡水化

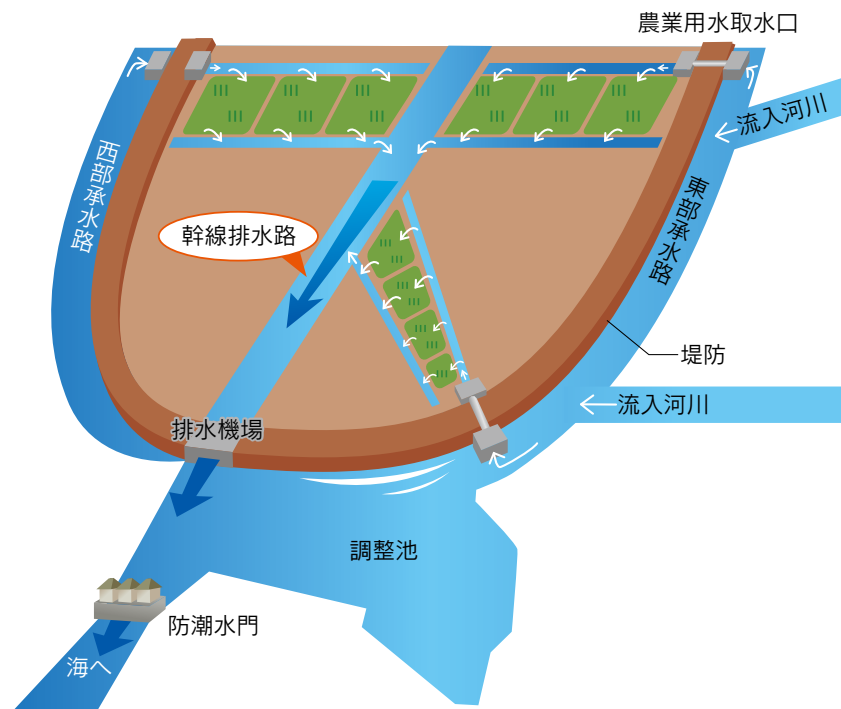
八郎潟調整池の水を農業用水として使用するために、防潮水門をつくり、日本海と遮断して調整池を淡水化しました。また、大量の水を安全に排水出来るように、S字に蛇行していた船越水道を一直線にして日本海に導くための工事も行われました。



大潟村の水の流れと管理



海面やまわりの土地より低い干拓地内を維持するために、また安定的な農業を行うために水の管理がきわめて重要です。水の管理には干拓堤防、幹線排水路、排水機場、防潮水門、農業用水取水口の基幹施設と呼ばれる施設が重要な役割を担っています。



農業用水は、承水路や調整池から農業用水取水口を通して干拓地内へ取り入れています。幹線排水路へは生活排水以外の干拓地内の全ての水が集められ、排水機場から調整池へくみ出されます。最終的には、防潮水門を通り海へと流されます。

3 ジオの見どころ 基幹施設

農業用水取水口

農業用水取水口は19カ所あります。調整池および東部承水路側にある12カ所の取水口は、堤防をまたぐように取水パイプを設置する「サイフォン方式」になっています。これは堤防が軟弱地盤に建設されているため、堤防の強度維持を第一に考えているからです。西部承水路側の堤防は安定した砂地盤上に築かれているので、7カ所の取水口は堤防中に管を通し、取水ゲートを設けて取水量を調節する「暗きょ方式」です。

サイフォン方式取水口

暗きょ方式取水口

幹線排水路

幹線排水路は2本あります。東西に延びる長さ6.9kmの一級幹線排水路と、ほぼこれに直交する15.7kmの中央幹線排水路です。幹線排水路につながる支線・小排水路の総延長は620.7kmあります。

中央幹線排水路は漕艇場としても利用され、ボート競技が行われています。

干拓堤防

一周およそ51.5kmある堤防が干拓地の周りを囲っており、干拓地内に水が流入しないように防いでいます。

南部排水機場

干拓地内の排水は南部、北部、方口の3カ所で行っています。このうち一番設備の大きい南部排水機場では、ポンプで中央幹線排水路から調整池に排出しています。また、西部承水路の水位調整も行っています。

この施設の展望室からは、広大な干拓地と排水路を眺めることができます。

防潮水門

防潮水門は全長370mあり、日本海へつながる船越水道からの海水の進入を防いで調整池は淡水化されています。また、周辺地域の流入河川などから承水路、調整池へ流れ込む水を排出し水位を一定に保っています。

基幹施設は秋田県や大潟土地改良区などにより維持管理が行われています。



4 ジオの見どころ

大潟富士・八郎潟干拓記念水位塔

大潟富士の高さは地面から3.7mあり、これは富士山の標高3776mの千分の一にあたります。山頂がちょうど海拔0mであることから日本一低い山と言われています。秋田県測量設計業協会の創立20周年を記念して、平成7年に誕生しました。また、隣接している八郎潟干拓記念水位塔もかつての湖水面（海水面）を示しており、球体の中心部分が大潟富士の山頂と同じ高さで海拔0mです。



5 ジオの見どころ

経緯度交会点標示塔

干拓によって陸地化され、北緯40度と東経140度が交わる交会点が大潟村に誕生しました。日本の陸地では、10度単位で緯線と経線が交わっているのはこの地点だけです。この標示塔は当時の測量基準（日本測地系）による、北緯40度、東経140度の地点に設置されています。現在の測量基準（世界測地系）による交会点は、ここから南東に400mあまり離れています。



6 ジオの見どころ

防災林



大潟村は標高-3～-5mの広大な平地で障害物のない土地に、特に冬には強い季節風が吹き抜けています。そこで農産物、農地、施設や住宅などを風雪害等からまもるための防災林として、クロマツ、セイヨウハコヤナギ、ポプラなどが道路沿や総合中心地に植えられています。それらの防災林をみると、木々が同じ方向に傾いており、風の強さや向きを知ることができます。



7 ジオの見どころ

大潟草原鳥獣保護区

昭和52年に135haが国により大潟草原鳥獣保護区に設定されました。そのうち48haは特に重要な地区として特別保護地区にも指定されています。保護区内では世界的に珍しいオオセッカ（環境省レッドリスト絶滅危惧ⅠB類）、タカ的一种で日本では珍しいチュウヒ（同絶滅危惧ⅠB類）、ホオジロの一種であるコジュリン（同絶滅危惧Ⅱ類）等の希少鳥類が確認されています。

保護区内には観察舎が設けられ、気軽に野鳥の観察をすることができます。



コジュリン



オオセッカ



チュウヒ

大潟草原野鳥観察舎

マガンの群れ



秋田県大潟村



交通のご案内

電車をご利用の場合

- 東京 ～ 秋田〈最速3時間37分〉
- JR奥羽本線 秋田駅 ～ 八郎潟駅〈最速23分〉

飛行機をご利用の場合

- 羽田空港(東京)～ 秋田〈約60分〉
- 中部国際空港 ～ 秋田〈約80分〉
- 伊丹空港(大阪)～ 秋田〈約80分〉
- 新千歳空港(札幌)～ 秋田〈約55分〉

車をご利用の場合

- 秋田空港から約90分
- JR秋田駅から約60分
- JR奥羽本線八郎潟駅から約20分
- JR奥羽本線鹿渡駅から約20分
- JR男鹿線船越駅から約20分

Oga Peninsula-Ogata Geopark

■発行：男鹿半島・大潟ジオパーク

男鹿半島・大潟ジオパーク推進協議会

(男鹿市観光文化スポーツ部 文化スポーツ課 文化ジオパーク推進班)

〒010-0595 男鹿市船川港船川字泉台66-1

TEL：0185-24-9104

E-mail：geopark@city.oga.akita.jp

男鹿半島・大潟ジオパーク 検索

